

■株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月開催
単元株式数 100株
基準日 定時株主総会 毎年3月31日
 期末配当 毎年3月31日
 中間配当 毎年9月30日（中間配当を実施する場合）
株主名簿管理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
 住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番4号
 住友信託銀行株式会社 証券代行部
（郵便物送付先）〒183-8701
 東京都府中市日鋼町1番10
 住友信託銀行株式会社 証券代行部
（電話照会先）（住所変更等用紙のご請求） ☎0120-175-417
 （その他のご照会） ☎0120-176-417
（インターネットホームページURL） <http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>
同取次所 住友信託銀行株式会社 本店及び全国各支店
公告方法 電子公告により、当社のホームページに掲載します。
 URL <http://www.mars-eng.co.jp/kessan/index.html>
 ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、
 日本経済新聞に掲載します。
上場証券取引所 東京証券取引所

[マースジャーナル]
第33期 中間報告書
平成18年4月1日から平成18年9月30日まで



当社ホームページのご案内



当社では、新製品の最新情報をはじめ、当社の製品や各種サービスおよびニュースリリースなど、当社に関する情報をホームページにて開示しています。
また、「投資家の皆様へ」のページにおいては、決算短信などの財務情報のほか、各種IR資料、株式情報、株主優待のご案内なども掲載しています。
どうぞお気軽にアクセスしてみてください。

URL: <http://www.mars-eng.co.jp>



株式会社 マースエンジニアリング
〒160-8420 東京都新宿区新宿1-10-7
TEL. 03-3352-8555 (代)
URL: <http://www.mars-eng.co.jp>



株式会社 マースエンジニアリング

マースは新しい「業界標準」を創ってまいります。



株主の皆様には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。当社の事業活動につきましては平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに第33期上半期(平成18年4月1日～平成18年9月30日)が終了いたしましたことをご報告申し上げます。

当中間連結会計期間におけるパチンコ業界は、遊技機主体の設備投資が行われ、周辺機器への投資では先送り傾向が顕著となり、先行き不透明感から新規出店や大型改装を見送るケースが目立ちました。この環境下において、当社は、サイクルカードシステムを中心としたトータルシステムでの販売をいたしました。また、ホール業務、ホール環境、経費節減を実現する画期的な新製品「パーソナルPCシステム」を発売するなど、開発型企業としての独創的なアイデアと提案力でお客様のニーズ先取りに鋭意注力いたしました。

特に、パーソナルPCシステムでは、顧客にもホールスタッフにも負担の大きかった玉運び業務を一掃し、遊技ファンへのサービス向上や少数でのホール運営、人材の定着化による社員育成が可能となり、市場から高い評価を獲得することができました。しかしながら、これらの努力も厳しい市況を覆し業績を好転させるには至りませんでした。

通期におきましても、人気機種種の検定満了にともなう新基準遊技機への入替えを中心とする設備投資が続くものと予想され、周辺機器投資が急激に改善されることは困難であるとの見通しです。こうした逆境の中、当社では開発型企業としての独創性のさらなる研鑽に努め、R&Dセンターを中心にこれまで培ってきた技術とノウハウを活かした新製品で新たな分野の開拓を積極的に推進してまいります。アミューズメント事業では、設備投資需要喚起のための販売強化に努めます。とりわけ、好評のパーソナルPCシステムは、業界の新たなスタンダードとして定着させるべく、認知度の一層の向上と実績の積み上げを図ってまいります。

株主の皆様には、今後とも当社事業への深甚なご理解と倍旧のご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 松波 明宏

当中間連結会計期間の業績

当中間連結会計期間の業績は、売上高129億10百万円(前年同期比22.8%減)、経常利益25億75百万円(同41.6%減)、中間純利益13億40百万円(同29.6%減)となりました。

アミューズメント関連部門におきましては、プライベートカードシステムであるサイクルカードシステムのうち、新製品のパーソナルPCシステムが市場から高い評価を得ることができ、平成18年9月末現在の導入(実稼働)店舗数は、このパーソナルPCシステムの5店舗を含む累計で1,759店舗(市場シェア15.9%)となり、サイクルカードシステムの個別売上高は49億49百万円となりました。また、景品管理システムの個別売上高は18億50百万円、RFID(無線ICタグ)部門の個別売上高は4億28百万円となり、この結果、アミューズメント関連部門の売上高は126億22百万円(同23.3%減)となりました。

その他事業部門はホテル事業を行っており、売上高は2億87百万円(同6.1%増)となりました。

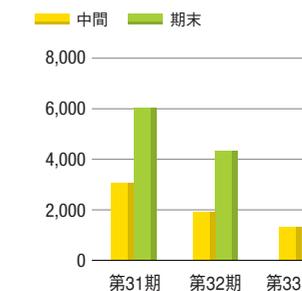
売上高(百万円)



経常利益(百万円)



中間(当期)純利益(百万円)



通期の見通し

パチンコ業界における上期からの低迷する周辺機器の設備投資需要が、下期においても急激に改善することは難しい状況の中、当社グループでは開発型企業グループとして独創的なアイデアを持って製品の開発を進め、特にホール業務、ホール環境、経費削減の3つの改善を図る当社独自のシステムであるパーソナルPCシステムを中心に、競合他社と差別化した製品を積極的に販売してまいります。

RFIDにつきましては、実証実験の結果から、大幅なコストダウンや業務改善が実現できると評価されており、業界を問わず、今後のシステムの普及へ向けて全力で取り組んでまいります。

通期の業績見通しにつきましては、売上高289億21百万円(前期比14.2%減)、経常利益60億5百万円(同30.1%減)、当期純利益32億42百万円(同25.5%減)を見込んでおります。

また、利益配当金につきましては、1株につき普通配当40円(中間配当金20円、期末配当金20円)を予定しております。

Mission of MARS

新たな挑戦～ PCCシステムのさらなる進化へ。

パチンコ業界に革命をもたらした パーソナルシステム

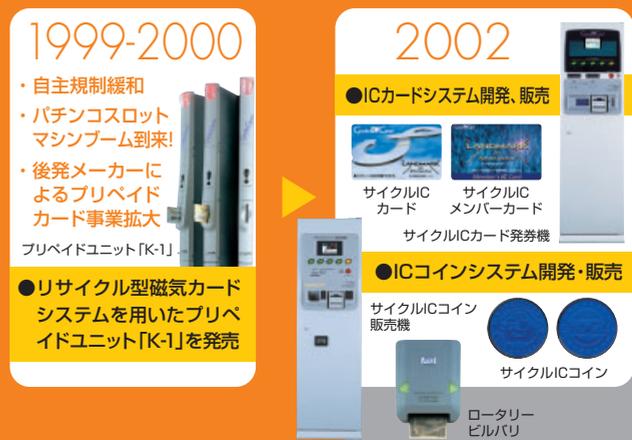
マースエンジニアリングが、「パーソナルシステム」の販売を始め、東証2部に上場した1996年は、空前のパチンコブームに沸いていました。当システムの誕生はパチンコ業界にとって画期的な事件でした。従業員を玉運びの重労働から解放することで人材募集を円滑にし、お客様が玉に触れずにプレーできるためパチンコ店のイメージが劇的に変わりました。さらには、即計数が可能となり閉店時間ぎりぎりまでお客様が遊べることで稼働率は向上し、売上に貢献。一石三鳥のメリットを提供することで、システム単価が1～2億円と非常に高額な商品であったにも関わらず、100店もの店舗が競ってこのシステムを導入し、好調なスタートを切りました。しかし、パチンコブームの過熱の中、駐車場に子供を置き去りにして死亡事故が発生するという事件が相次いだことから、業界へのバッシングは急速に強まり、業界は自主規制を余儀なくされて厳しい冬の時代を迎えました。

PCCシステムまでのマイルストーン



リサイクル型プリペイドで 業界標準を獲得

その後、自主規制の緩和やスロットマシンの人気上昇、プリペイドの利便性向上によりパチンコ業界は上昇に転じました。当社がプリペイドユニット「K-1」販売によって当事業に参入したのは1999年と後発でした。しかし、画期的なランニングコスト削減を実現したリサイクル型磁気カードシステムを搭載した当ユニットは、先行3社を追撃。販売開始以来、順調にシェアを伸ばしました。当ユニットの当日入金、当日精算の遊技スタイルは市場から評価され、今日の業界標準となっています。また、2000年には東芝ケミカルよりRFID事業を取得し、2002年にICカードシステムとICコインシステムを開発販売。ICカードでメンバーズとプリペイドを統合し、緻密なサービスと顧客管理を実現しました。また、低インシャル&ランニングコストで先行他社を凌いだICコインは予想を超えるスマッシュヒットを記録しました。



さらに厳しい規制を超克すべく 「パーソナルPCシステム」を発売

2006年5月。「風俗営業等の規制及び業務の適性化に関する法律」(風適法)の一部改正が施行され、大幅な規制強化によって再びパチンコ業界の冷え込みが続いています。一方、経済の回復基調で企業収益が高まり、雇用環境改善の兆しが見える中、パチンコ業界の人材確保は一層厳しさを増しています。マースエンジニアリングでは、こうした状況をビジネスチャンスととらえ、発売10年を経たパーソナルシステムを大幅にリニューアルし、プリペイドタイプの「パーソナルPCシステム」として販売を開始しました。従来システムの、〈玉積み不要〉(即計数可能)などに加え、有機ELディスプレイ搭載、操作ガイダンス表示による初心者操作の簡便化、カードストックによるスタッフ業務の軽減、プリペイドによる会員サービス向上など、従来システムに比べ飛躍的に利便性や性能を向上させ、かつ低価格化を実現しました。



MARS Action!

[パーソナルPCシステムの導入例]



東京都新宿区
パチンコ金馬車新宿店様

JR新宿店から徒歩10分という有数の激戦区の中で、多くのリピーターで賑わう「パチンコ金馬車新宿店」様。快適な空間の提供を目指しています。

こちらに導入されたパーソナルPCシステムは、ホールを都会的に一歩先へ行くアミューズメント施設へとステップアップさせ、のびのびと遊技できる空間を提供し、他店では真似のできないサービスの充実に一役買っています。

パチンコ金馬車新宿店様のコメント



通路から玉箱が消え、すっきりとした印象に

玉箱の上げ下げをする必要がなくなったので、わずらわしさがなくなり、お客様がより遊技に集中していただけるようになりました。また、玉運びがなくなったことで、特に女性スタッフの定着率が向上しています。

さまざまなシーンに「マース」は、
生きています。

長年パチンコ関連製品へ独自の技術を発揮してきた当社は、
日常生活のさまざまな場所で幅広く活用される「RFID」の分野に進出しています。

 **物流管理システム**

商品タグにRFIDを組み込むことで、読み取り精度が向上し読み取り時間もバーコードに比べて約40%短縮でき、業務の効率化が図れます。また、製品の荷動きをリアルタイムに捉えて、販売機会ロスや不良在庫をなくします。

 **就業管理システム**

従業員の就業管理を「従来のシステムでは対応していないから」、という理由でおざなりにしていませんか？また、給与システムとの連動も人手に頼っていませんか？当システムでは、既存の仕組みに依存した管理ではなく、より完全な就業管理システムとして、ご提供します。

 **工程管理システム**

部品・製品・作業者の個体情報を認識することで、工程管理に必要なさまざまな情報をデータ化。上位システムと有機的に結合し、部品納入から作業指示・実績収集まで一元管理が可能になります。情報収集の方法からデータベースの作成・運用までお客様と一緒に考え、ご提案いたします。

 **顧客管理システム**

お買い物をしたらスタンプを押す、イベントを実施するからDMを送る、ということだけが顧客管理システムではありません。「簡単に使えて、いろいろなことができる」顧客管理システムを、ハードの選択からソフト開発まで、お客様のニーズに合わせてご提案いたします。

RFIDとは…

ICタグを使った無線通信による識別技術で、Radio Frequency IDentificationの略です。詳しくは下記アドレスをご覧ください。

URL: <http://www.mars-techno.co.jp>

Consolidated Financial Statements [中間連結財務諸表]

中間連結貸借対照表(要旨)

(単位:千円)

科目	当中間連結 会計期間末 平成18年 9月30日現在	前中間連結 会計期間末 平成17年 9月30日現在	前連結 会計年度末 平成18年 3月31日現在
資産の部			
流動資産	32,204,710	36,470,917	33,245,608
固定資産	13,552,694	11,838,286	12,900,719
有形固定資産	9,633,920	9,272,813	9,600,653
無形固定資産	152,379	159,037	139,939
投資その他の資産	3,766,394	2,406,435	3,160,125
資産合計	45,757,405	48,309,203	46,146,327
負債の部			
流動負債	8,671,220	10,211,769	9,576,168
固定負債	2,723,520	2,875,322	2,827,803
負債合計	11,394,741	13,087,092	12,403,971
少数株主持分	—	556,570	650,495
資本の部			
資本金	—	7,934,100	7,934,100
資本剰余金	—	8,371,830	8,371,830
利益剰余金	—	18,646,432	20,642,978
その他有価証券評価差額金	—	314,081	382,166
自己株式	—	△600,903	△4,239,215
資本合計	—	34,665,540	33,091,859
負債、少数株主持分及び資本合計	—	48,309,203	46,146,327
純資産の部			
株主資本	33,508,692	—	—
評価・換算差額等	246,772	—	—
少数株主持分	607,199	—	—
純資産合計	34,362,663	—	—
負債、純資産合計	45,757,405	—	—

中間連結損益計算書(要旨)

(単位:千円)

科目	当中間連結 会計期間 (平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで)	前中間連結 会計期間 (平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで)	前連結 会計年度 (平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで)
売上高	12,910,863	16,729,917	33,703,740
売上原価	7,017,182	8,933,488	18,468,667
売上総利益	5,893,680	7,796,429	15,235,073
販売費及び一般管理費	3,362,044	3,409,326	6,738,749
営業利益	2,531,636	4,387,102	8,496,324
営業外収益	44,633	32,138	111,144
営業外費用	1,045	11,763	21,259
経常利益	2,575,224	4,407,477	8,586,209
特別利益	—	26,594	148,563
特別損失	117,366	1,083,057	1,087,197
税金等調整前中間(当期)純利益	2,457,858	3,351,014	7,647,575
法人税、住民税及び事業税	1,056,633	1,358,937	3,125,212
法人税等調整額	△31,781	△9,652	△20,068
少数株主利益	92,151	96,019	189,387
中間(当期)純利益	1,340,854	1,905,710	4,353,043

中間連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:千円)

科目	当中間連結 会計期間 (平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで)	前中間連結 会計期間 (平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで)	前連結 会計年度 (平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	1,589,331	1,831,036	3,124,818
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,480,851	△430,868	△1,489,009
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△555,053	△2,155,094	△6,343,292
IV 現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	△446,573	△754,926	△4,707,483
V 現金及び現金同等物の期首残高	15,079,940	19,787,424	19,787,424
VI 現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	14,633,367	19,032,497	15,079,940

中間連結貸借対照表

2006年5月1日施行の会社法により、「資本の部」が廃止され、「純資産の部」が新設されました。これは貸借対照表上、資産性を持つものを「資産の部」、負債性を持つものを「負債の部」に記載し、それらに該当しないものを資産と負債の差額として「純資産の部」に記載するものです。これにより、会社の支払い能力などの財政状態をより適切に表示することが可能となります。

中間連結株主資本等変動計算書(要旨) 当中間連結会計期間(平成18年4月1日から平成18年9月30日まで) (単位:千円)

科 目	株 主 資 本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
平成18年3月31日 残高	7,934,100	8,371,830	20,642,978	△4,239,215	32,709,692
中間連結会計期間中の変動額					
剰余金の配当			△427,807		△427,807
役員賞与			△114,047		△114,047
中間純利益			1,340,854		1,340,854
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額(純額)					-
中間連結会計期間中の変動額合計	-	-	798,999	-	798,999
平成18年9月30日 残高	7,934,100	8,371,830	21,441,978	△4,239,215	33,508,692

科 目	評価・換算差額等		少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計		
平成18年3月31日 残高	382,166	382,166	650,495	33,742,355
中間連結会計期間中の変動額				
剰余金の配当				△427,807
役員賞与				△114,047
中間純利益				1,340,854
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額(純額)	△135,394	△135,394	△43,296	△178,691
中間連結会計期間中の変動額合計	△135,394	△135,394	△43,296	620,308
平成18年9月30日 残高	246,772	246,772	607,199	34,362,663

中間連結株主資本等変動計算書

2006年5月1日施行の会社法により、「連結剰余金計算書」が廃止され、「連結株主資本等変動計算書」が新設されました。これは貸借対照表の純資産の部の中で、主として株主の皆様へ帰属する株主資本について、その1会計期間における変動事由と変動額を、連結ベースでご報告するために作成する計算書類です。

中間単体貸借対照表(要旨) (単位:千円)

科 目	当中間期 平成18年 9月30日現在	前中間期 平成17年 9月30日現在	前事業年度末 平成18年 3月31日現在
資産の部			
流動資産	21,162,992	26,250,078	22,424,068
固定資産	12,972,080	11,103,274	12,283,395
有形固定資産	4,561,931	4,154,968	4,539,925
無形固定資産	173,787	199,439	172,956
投資その他の資産	8,236,361	6,748,865	7,570,512
資産合計	34,135,072	37,353,352	34,707,463
負債の部			
流動負債	3,701,945	4,728,863	4,402,813
固定負債	723,971	675,793	689,781
負債合計	4,425,916	5,404,656	5,092,595
資本の部			
資本金	-	7,934,100	7,934,100
資本剰余金	-	8,371,830	8,371,830
利益剰余金	-	15,929,597	17,168,230
その他有価証券評価差額金	-	314,071	379,923
自己株式	-	△600,903	△4,239,215
資本合計	-	31,948,695	29,614,868
負債・資本合計	-	37,353,352	34,707,463
純資産の部			
株主資本	29,451,895	-	-
評価・換算差額等	257,260	-	-
純資産合計	29,709,156	-	-
負債・純資産合計	34,135,072	-	-

中間単体損益計算書(要旨) (単位:千円)

科 目	当中間期 (平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで)	前中間期 (平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで)	前事業年度 (平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで)
売上高	9,259,701	13,614,135	27,293,442
売上原価	5,178,500	7,583,628	15,546,255
売上総利益	4,081,201	6,030,506	11,747,187
販売費及び一般管理費	3,085,847	2,996,622	6,011,361
営業利益	995,354	3,033,884	5,735,825
営業外収益	230,824	141,074	214,951
営業外費用	-	1,747	10,367
経常利益	1,226,178	3,173,211	5,940,409
特別利益	19,892	26,594	148,563
特別損失	117,366	1,083,057	1,086,660
税引前中間(当期)純利益	1,128,704	2,116,748	5,002,311
法人税、住民税及び事業税	444,779	828,770	2,059,624
法人税等調整額	△35,832	14,731	△19,979
中間(当期)純利益	719,757	1,273,246	2,962,666
前期繰越利益	-	9,684,241	9,684,241
中間配当額	-	-	450,787
中間(当期)未処分利益	-	10,957,488	12,196,121

中間単体貸借対照表

2006年5月1日施行の会社法により、「資本の部」が廃止され、「純資産の部」が新設されました。これは貸借対照表上、資産性を持つものを「資産の部」、負債性を持つものを「負債の部」に記載し、それらに該当しないものを資産と負債の差額として「純資産の部」に記載するものです。これにより、会社の支払い能力などの財政状態をより適切に表示することが可能となります。

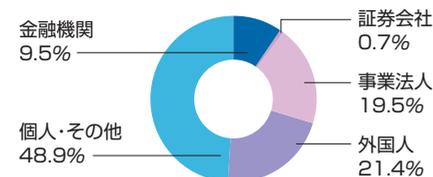
株式の状況 (平成18年9月30日現在)

発行可能株式総数	6,762万株
発行済株式の総数	2,272万株
期末株主数	6,244名

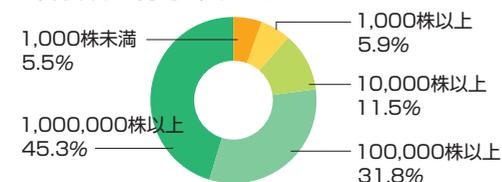
大株主

株主名	持株数(千株)	議決権比率(%)
(株)イー・エムプランニング	4,251	19.87
松波廣和	1,404	6.57
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	1,292	6.04
松波香代子	1,028	4.81
松波明宏	1,000	4.67
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン	703	3.29
日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (信託口)	601	2.81
みずほ信託退職給付信託東京都民銀行口 再信託受託者資産管理サービス信託	600	2.80
古宮重雄	490	2.29
五味輝雄	450	2.10

所有者別分布状況



所有株数別分布状況



会社概要 (平成18年9月30日現在)

商号	株式会社マースエンジニアリング (Mars Engineering Corporation)
本社所在地	東京都新宿区新宿一丁目10番7号
設立年月日	昭和49年9月13日
会社の目的	1.各種電子機器の設計・試作並びに製造販売 2.ソフトウェアの開発 3.電子機器の開発、企画並びに販売 4.ホテルの経営 5.不動産の賃貸業 6.建築工事の企画、設計並びにコンサルティング業務 7.損害保険代理店業 8.前各号に付帯する一切の業務
資本金	7,934,100,000円
就業者数	498名(男456名、女42名)

役員

代表取締役	松波 廣和
代表取締役会長	古宮 重雄
代表取締役社長	松波 明宏
取締役副社長	五味 輝雄
取締役	大矢 俊寿
取締役	村上 浩
常勤監査役	後藤 利行
監査役	竹俣 耕一
監査役	高嶋 幾雄
監査役	小林 郁夫

執行役員

古越 登	東日本営業部長
杉本 孝司	東海営業部長
秋山 裕和	西日本営業部長
杉内 雄二	ラインテック事業部長
佐野 邦明	R&Dセンター長
井出 平三郎	技術開発部長
渡邊 廣美	製造部長
佐藤 忠義	総務部長兼特許管理室長
佐藤 敏昭	経理部長

「マース」という名のもとに

夢中でした…
何もかも。



昭和49年9月、新宿1丁目の小さな雑居ビルの12坪のオフィス。4人の男たちが、「自分たちの培ったコンピュータ技術の経験とノウハウを試してみたい」という気持ちだけを胸に会社を設立しました。

名前は「マース」。ギリシャ・ローマ神話の火星=戦闘の神であり、この牡牛座の守護神が授ける戦闘力を願って命名しました。これに技術力の高さを志して「エンジニアリング」を付け、「株式会社マースエンジニアリング」は始動したのです。

しかし世間の風当たりは強く、当初は苦労の連続でした。受注が途絶えて資金繰りに困り、金になる仕事探しに奔走することもありました。それでも必死の努力でカシオ計算機からのアプリケーションなどのソフト開発を受託する業務を契機に、システム機器販売代理

店となって設立者の1人が技術者から本格的に営業マンとして転向し、受注拡大に努めます。しかし、みかん類選果評価装置の開発を受注した際には部材や設備費用に見積もり違いが生じて危うく損失を出しそうになり、必死で受注金額の変更を懇願するということも経験しました。

そんな中、東京都田無市(現在の西東京市)の中央図書館の開館に合わせて図書の貸し出し・返却システムを提案することになったのです。技術志向の強い4人組が、当時最先端のマイコン技術を駆使できるシステムを受注したことは会社存続の大きな転機となり、4ヶ月余りの短い開発期間に昼夜を問わず取り組み、なんとか開館に間に合わせる事ができました。こうした開発への心意気が今のマースに生きています。

今回から10回シリーズで、マースエンジニアリングの歴史をこのコーナーで紹介してまいります。どうぞ、ご期待ください。